



## 森村学園 初等部

〒226-0026 横浜市緑区長津田町2695  
TEL.045-984-2509 FAX.045-984-6996  
E-mail : shotobu@morimura.ed.jp  
URL:https://www.morimura.ed.jp



森村学園初等部  
HP



森村学園初等部  
Instagram



## 森村学園 初等部

Morimura Gakuen Elementary School



「学び」と「遊び」の翼は成長の原動力  
どこまでも高く 力強く飛ぶために

## 初等部の原点 ～大切にしていること～

### 個性は宝物 ～その輝きを大切に～

本校では、子どもたち一人ひとりの個性を大切に、それぞれの能力や興味を伸ばす教育を目指しています。日々の学校生活や教科の学習では、子どもたちが自分らしい発想や思考を表現できる場を設けています。また、運動会、展覧会、音楽会、学芸会、林間学校など、多様な活動を通じて、子どもたちは自分の得意なことや新しい可能性を発見し、豊かな人格形成を図ります。これらの経験を通して、子どもたちが自信を持ち、自分らしさを発揮しながら、健やかに成長していけることを願っています。

### 心の教育

子どもたち一人ひとりを深く理解し、その気持ちに寄り添うことを大切にしています。子どもたちが素の自分を安心して表現できる環境を整えることで、教職員やクラスメートと互いに信頼し合える関係を育みます。また、心の琴線に触れるような豊かな体験を通じて、思いやりや共感力を高めていきます。子どもたちの心の成長を支えながら、高校卒業までの一貫教育の中で、幅広い視野と深い人間性を培っていきます。

### 自然と調和した環境で成長する

本校は校舎を森に囲まれ、四季の移ろいを感じられる環境にあります。子どもたちは、毎日の生活の中で様々な生き物の息吹に触れ、生命の力強さやはかなさを感覚で学びます。また、森での創造的な遊びは自然を大切にすることを育むだけでなく、自ら考え、行動する気持ちを伸ばします。こうした体験は、デジタルに囲まれた現代社会では、なかなか得られない、かけがえのない時間です。自然の中で感じた驚きや発見は、子どもたちにとって一生の宝物となり、豊かな心と生命を尊ぶ価値観を育むことでしょう。



# 建学の精神



社会がどんなに厳しい挑戦の時代を迎えても、  
 高い志をもって未来を切り拓ける  
 「森村っ子」でいてほしい。  
 そして、自らの幸せの先に、世の中の多くの  
 人々の幸せを重ねられる人になってほしい。

## 校訓「正直・親切・勤勉」

校訓「正直・親切・勤勉」の志は、実業界の経験から見出した翁の人生哲学から生まれた言葉。学園を築いた沢山の森村っ子たちの心の道しるべとなっています。

森村学園初等部  
「森村学園の歴史」動画



# 独立自営

森村学園の理念

建学の精神 「独立自営」

教育理念

「人徳を備え、自らの力で人生を切り拓き、  
 世界の力、社会の力となる人材の育成」

校訓 - 行動指針 -

### ■ 正直

誠実であることを最上とし、  
 偽りのない人であれ。

#### 正直

- ①自分自身に偽りのない心を持つ。
- ②相手を信頼し、誠実な心で接する。
- ③徳を重んじ、人として正しい道を歩む。

### ■ 親切

あたたかき心もち、  
 行動する人であれ。

#### 親切

- ①自らを大切にでき、人の悲しみや喜びに共感できる心を持つ。
- ②互いの個性や立場を尊重し、思いやりを持って行動する。
- ③自らを取り巻くすべてのものを愛し、大切にす。

### ■ 勤勉

人の力は無限に進む。  
 学び続ける人となれ。

#### 勤勉

- ①学ぶことの喜びを知り、真理を求め続ける強い心を持つ。
- ②自分や他者の良いところに気づき、よりよい関係を築こうとする。
- ③学びを生かし、自らの夢と幸せな社会の実現を目指す。

### ■ 建学者の精神 「独立自営」の志

森村学園の創立者である森村市左衛門は、激動の幕末から明治期の荒波を乗り越え、日米貿易の先駆者として活躍した実業家です。市左衛門は実業界での経験から人材育成の重要性を悟り、晩年その情熱を教育に注ぎました。「依頼心を起こさず、胆力至誠の決心にて困難に打ち勝ち、人類社会の幸福を求める為に奮励努力する」\*という「独立自営」の精神を礎としていた市左衛門は、1910年森村学園を開校しました。その精神は、森村教育の根幹をなす言葉として、学園の教育理念の中に息づいています。

\*出典 「独立自営」・「永遠の光」より

## 創立者森村市左衛門と建学の精神について



森村学園は1910年、森村市左衛門によって、東京都高輪の地に創立されました。創立者森村市左衛門は、明治末期に「ノリタケチャイナ」と呼ばれる美しい陶磁器を作り、国内セラミックス産業をはじめとして、日本の海外貿易の礎を築いた実業家です。世界的視野に立って国際性を追求し、良き企業市民として社会と共に発展しようとする、市左衛門の自主独立の精神は、日本のセラミックス産業界のリーディング企業であるノリタケ、NGK株式会社、TOTO、日本特殊陶業、森村商事などの「森村グループ」の経営ビジョンの中に今も息づいています。

市左衛門は、次世代を担う人材育成の必要性を痛感し、慶應義塾や日本女子大学、北里研究所を始めとする多くの教育事業に惜しみない援助を続けました。晩年、「花をつくるより人をつくろう」の決意のもと、自宅の庭を開放し、自らの理想とする幼稚園と小学校を作りました。それが森村学園の始まりです。

1978年、現在の地に全学移転を行い、以来、中学、高校を創設しながら歴史を刻んできました。「独立自営」の建学の精神に基づき、バランスの取れた人間形成を目指して、幼稚園から高校までの一貫教育を行っています。創立100年余を経た今、教育の軸足をしっかり持ちながら、時代の要請に応えるべく、学園はさらに前進し続けていきます。

# 学びへの思い

自立した人として生きる。  
伝統や文化を基盤にし、得た知識を活かして自ら問いを立て、  
問題を解決していく。  
他者と協力しながら新しい価値を創造する。  
絶え間なく変化する時代に求められるのは、  
人としての本質的な力。

本校は森に隣接した校舎を持ち、子どもたちは四季の移ろいを五感で感じながら豊かな学校生活を送っています。また、遊びやさまざまな活動を通じて、新しい発見を重ねながら学びを深めています。

現代はテクノロジーの進化とグローバル化が加速し、気候変動や国際情勢の変化が次世代に多くの課題をもたらすと考えられています。2016年にOECDは「Learning Compass 2030」\*を提唱しました。未来に必要な学びの方向性を示すために開発された教育分野のフレームワークです。長期的な視野に基づき、子どもたちが未来社会で適応し貢献できる力を育むことを目的としています。大量生産型のモノづくりが社会の中心だった時代には、集団で一律に知識を身につけさせる教育が有効でした。しかし、現在の社会では、既存の概念にとらわれない発想力を持ち、自らの発信力をエネルギーとして人とつながり、発展的なコミュニティを築ける人材が求められています。学びのあり方も、時代の要請を意識し、柔軟かつ適切に調和させていく必要があるのです。



本学園の教育の柱は、「ICT教育」「ランゲージ・アーツ」「英語教育」の三つです。あふれる情報を正しく理解し、自分の考えを明確にしながら世界へ発信する力を育んでいます。

これらの学びを支えるうえで欠かせないのが、他者と協働しながら学びを深める力です。グループワークや共同制作、学校行事や宿泊体験を通して、互いを尊重し協力し合う経験を重ねていきます。安心して意見を交わし、認め合いながら活動する中で、「自分にはできることがある」という実感が生まれ、次の挑戦へと向かう自信が育まれていくのです。

私たちはまた、学校は子どもたちにとって本質的な楽しさを実感できる場であることが重要であると考えています。日々の学校生活の中で、学びや成長に根ざした楽しさを感じるからこそ、「やってみたい」「もっと知りたい」という思いが芽生えます。そうした気持ちは、自ら考え、選び、行動しようとする主体的な姿勢へとつながり、やがて人生を支える大切な基盤へと育っていきます。

本校では、この主体的に学びに向かう力を「エージェンシー」と捉え、授業や行事、探究的な学び、遊びの場面など、学校生活全体を通して育んでいます。「先生に言われたから取り組む」のではなく、「自分でやってみたいから挑戦する」という経験を積み重ねることで、子どもたちは自らの可能性を広げていきます。

森村学園初等部校長 時川郁夫



\*「学びの羅針盤」

OECD(経済協力開発機構、英: Organisation for Economic Co-operation and Development)のEducation 2030プロジェクトの一環として提唱された。知識(knowledge)、スキル(skills)、態度・価値観(attitudes and values)の三つが一体のものとなって絡み合い、自らの学びや人生の舵取りをしていくための枠組みとして概念化されたもの。

# 初等部6年間の学び

## 学びの楽しさと人間力を育む6年間 成長の喜びが広がる学校生活

子ども時代は将来の可能性を広げるための大切な基礎づくり。だから森村学園初等部のモットーは、「しっかり学び、とことん遊べ」。新しい発想や考え方を生み出すためには、知識・技能は不可欠です。「遊び」は、好奇心や探究心を育むと共に、社会性を養う場となります。人を思いやり、自分で考え、自ら伸びる心が育つように、綿密な指導計画や教材研究を重ね、充実した学校生活をサポートしています。



子どもたちに大人気のジャンボ滑り台。「こわーい!でもおもしろーい!」達成感を感じることのできる遊びの空間です。

### 毎日ワクワク!学びのはじまり

学校生活を始めたばかりの低学年の子どもたちにとって、学校の楽しさを実感することが何よりも大切です。一人ひとりが学校生活の主役として、学びや遊びに積極的に取り組めるよう、低学年には担任のほか、各クラスに担任助手の教員を配置し、休み時間を含めすべての授業は2人体制で支援し、進めます。

## 低学年



森の中にあるミニグラウンドでお花つみ。たんぼの種ふきは森村っ子たちの遊びの定番です。



初等部1年生と幼稚園年長組との交流会。



いつもは幼い1年生の顔がちょっとお兄さん、お姉さんに。



### 新しいことに挑戦する、世界を広げる

仲間とのつながりを感じ始め、自己の考えを持つようになります。学習においては、具体的な内容から徐々に抽象的な思考へと進んでいきます。遊びの中心は、工夫次第でさまざまな楽しみ方ができる学園内の森です。林間学校は3年生から始まり、自然を体験する学習を通じて、人とのつながりの大切さを学んでいきます。



6年生の道徳の授業で、弁護士の方にお話をうかがいます。人権やいじめについて理解を深めます。

## 中学年



3年の森でいっぱい遊びたい!

## 高学年

### 高い目的意識を持つ、自分を見つめる

委員会やクラブ活動が始まり、下級生との交流を通じて思いやりの心を育てます。学習では、さらに発展的な課題に取り組み、自分で答えを見つける喜びを実感します。広い校庭や体育館で行われる遊びも、ダイナミックで活気に満ちています。自我が目覚め、心の中で大きな変化が起きる中で、自律した人としての第一歩を踏み出します。また、5年生からはスキー学校が始まります。

## つながる学びの道筋

幼稚園児から高校生まで幅広い年齢構成の森村学園。幼稚園年長組と初等部1年生との交流や、初等部生の中高部活体験等、異学年交流の機会は一貫校ならではの。人間関係の形成能力を伸ばし、また内部進学によって、滑らかな接続による安定した学校生活を目指します。6年生は、学習面や生活面に問題がない場合、校長の推薦という形で中等部へ内部進学します。



中高等部図書館の体験。子どもたちは初等部図書室よりも広い学校図書館にびっくり。

- 1 初等部校舎
- 2 3年の森
- 3 初等部体育館
- 4 中等部校舎
- 5 高等部校舎
- 6 中高等部体育館
- 7 テニスコート
- 8 学園正門
- 9 屋内プール・幼稚園ホール
- 10 幼稚園園舎





# 初等部の教育目標

本校では、子どもたちが心豊かに成長し、未来を切り拓く力を身につけるために、次の教育目標を掲げ、その実現に向けて日々の教育活動を進めています。新しい発想や多様な考え方を生み出す「学び」だけでなく、「遊び」もまた、好奇心や探究心を育て、社会性を培う貴重な場です。子どもたちが自ら考え、他者を思いやり、のびやかに成長できるよう、一人ひとりの個性や成長を丁寧に見つめながら、充実した学校生活を支えることを大切にしています。

美しいものを愛し、自然を大切にする子に育てよう

困難を乗り越える強い心を持つ子に育てよう

友だちと仲よくでき、思いやりのある子に育てよう

善悪のけじめをつけ、進んで善い行いをする子に育てよう

基礎学力をしっかりと身につけ、向上心を持つ子に育てよう

体を鍛え、自分自身を大切にする子に育てよう



## 各教科の説明

今、社会に生きる人としての基本的な能力が、改めて求められる時代です。主体的に学ぶ「知」の基礎力、論理的に考え創造する力、人の気持ちや「本物」を感じる心。これらを立体的に育むことを目指します。3年生以上の希望者には、週1回、放課後の時間に補習を行っています。また5、6年生は長期休暇にも希望者に学習会を開いています。



国語

「話す・聞く」「読む」「書く」の4つの言語活動によって、国語を適切に表現し、理解する能力を伸ばします。音読などによって、音声による表現の奥深さを感じられるよう導き、作品の理解につなげていきます。



算数

決まった解き方で正解を導き出すだけでなく、「考え方」について深く学習します。きまりを発見する力や、「数・量・形」に対しての柔軟な感覚をじっくり養います。3年生ではチームティーチング、4年生以上は二分割授業を行い、「習熟」と「発展」の両面での充実を目指します。



音楽

人は、音楽によって、喜びや悲しみなど、己の心を表現してきました。音楽を言葉に代わる表現の手段、感情を盛る器として捉え、表現することの喜びをたくさん感じられるよう、充実した音楽活動を行います。



体育

球技、体操等、発達段階に応じた様々な種目に取り組みます。運動技術の向上だけでなく、体を動かす心地よさを実感しながら、自らすすんで健康な身体を作ろうとする姿勢を培うことも大切にしています。5月末から11月中旬にかけて、週一時間水泳学習を行います。



理科

創立時から「自然科」という独自の教科を設置、観察を中心とした理科教育を行ってきました。いまも学園の豊かな自然や、所蔵している標本、充実した理科設備を使って、子どもたちが自らの手で観察し、実験を通して理解を深めることを大切にしています。



社会

自分を含め、様々な地域の人々が、各々の歴史や環境のもとでどのように暮らしているか学び、世界中の人々の平和な未来を考える教科です。社会生活に関する知識だけでなく、子どもたちを活用し、課題について様々な角度から考え、表現する力を伸ばしていくことに重点をおいています。



図工

子どもの自由な発想を大切にしながら造形活動を行っています。低学年では造形遊びを中心に、自分の思いやイメージを色や形で表すことの喜びをたくさん体験します。高学年では、自らの力で計画し、制作を進める「個別学習」によって、より主体的な創作活動に発展します。



家庭

家庭生活への関心を高め、よりよい生活を工夫できるようにすることをねらいとしています。生活の中の知恵や科学、人々の思いに気づくことが、自らの家庭生活への考えを深めていきます。調理や被服等の実習では、生活の主体者として様々な生活の技術を学びます。



英語

1年生から3年生は週1時間、4年生以上は週2時間、少人数の二分割授業で行います。英語によるコミュニケーションを「楽しい」と思えるような授業の雰囲気大切にしています。英語に慣れ親しむことで、ことばや文化への気付きを促し、日本語のみでコミュニケーションしていたときにはなかった、新しい言葉の世界が自分の中に生まれてきます。



道徳

社会に生きる一人の人間として道徳性を、主に校訓をキーワードとして、皆で考えていきます。道徳や倫理観が問われるのは、多くの場合「正解」が一つに決まらない場面、答えるべき道徳的な「正解」が複数ある、という授業展開ではなく、教師も子どもたちも共に考え、悩み、気持ち「揺れる」経験の中に、自分なりの答えを見出せるようにと願っています。



クラブ活動

5、6年生は週一回、クラブ活動を行なっています。運動系と文化系のクラブが合わせて17あり、子どもたちはそれぞれ興味を持ったクラブに所属します。学年を越えた交流を通してチームワークを深め、子どもたちの自発的、自立的に行えるよう導きます。



委員会活動

12の児童委員会があり、5、6年生は必ずどれかの委員会に所属します。委員会活動を通して学校の一員としての自覚を持ち、友達と協力しながら学校生活の充実と向上を目指して、話し合いをもとに活動を行っています。

## 森村学園 教育の3つの柱

### 社会のグローバル化が求める「ことばの力」とICT(情報)教育

森村学園では、次世代に求められる能力の一つとして、「ことば」の力とICTに関する能力を大切にしています。ことばの力は、新たな知識や技能を活用し、課題を探究するための「論理的思考力・判断力・表現力」の基盤となるものです。

### ランゲージアーツ



欧米諸国で実践されている世界標準の母語教育であり、体系的にことばの学習を行うプログラムです。2012年より中高等部で開始され、初等部は2018年から行っています。批判的思考(絵やテキストの分析)や、論理的思考(多面的に物事を見る技術)、情報伝達の力(説明・描写・報告)等を通して、「ことば」について深く、将来にわたる社会活動において必要となるスキルにつなげていきます。

### 英語教育



海外貿易の先駆者であった創立者の意志を汲み、開校当初より英語教育を行ってきました。現在は英国の公的機関British Councilの講師2名と本校日本人英語専任教諭による森村オリジナルカリキュラムの授業を1年生より実施。4年生以上はクラスを二つに分け、少人数による授業に。2019年夏より、5年生以上の希望者に社会活動において必要となるスキルにつなげていきます。

### ICT教育



校内にメディアルームを設置し、専門の教員を配置して、1人一台のiPadを持ちながら、発達段階に合わせて機器の使い方やメディアリテラシーを学びます。iPadはICTの授業だけでなく、「ノートと同じ」という文房具の一つといったレベルで各教科で使用しています。ICT(情報)担当教諭はAppleに認定を受けたApple Distinguished Educatorです(本校のADEは3名)。ICT(情報)の授業を通して学んだスキルや知識が実社会と繋がり、よりクリエイティブな学校生活となることを目指しています。

## “森村っ子”のこんなエピソード1



図画工作科 峰岡正裕 教諭



初等部では、グループごとの共同制作にも取り組んでいます。図画工作は、個人の発想やイメージをもとにした表現活動であり、異なった個性が集まってひとつの作品に仕上げる共同制作は難しいと言われていました。共同制作で、自分とは異なる感じ方や表現に触れることは、自分の表現を客観的にみつめ、大切にすることにもつながります。森村っ子の作る共同制作の作品はどれもダイナミック。「もっと作りたい!」というエネルギーは机の大きさを簡単に超えています。

※学園創設の流れをくみ、学校内に焼成ができる窯を設置。全学年で陶芸作品に取り組みます。



# 総合学習で探究心を育む

## “知っている”ことから“できるようになる”ことへ

初等部では「総合」という時間を設け、「自然」「社会」「人」のテーマで、教科の枠を超えた、生き生きとした学習の場を創生します。幼稚園年長組も含めた異学年交流や、目が見えない方との交流等、自分とは異なる立場の人との関わりを体験します。高学年ではクラスでテーマを決めることからスタート。主体的に活動し、探究する力が求められます。2024年度6年生の総合では「行事を作る」をテーマに探究しました。どんな内容の行事にするかから話し合い、試行錯誤しました。「文化祭」を企画し、2学期末に初等部体育館で全学年対象に実施しました。



### エコプロ



環境に配慮した製品や環境に関する最先端の技術を集めた展示会「エコプロ」を見学。産官学民それぞれの取り組みなどが展示され、自分たちが担うであろう未来の予想図を知ることができます。技術革新に思いをかける人々の息づかいを感じ取ってほしいと願っています。



### 命の教育



命の尊さや自分自身、そして周りの人を愛することの大切さを感じられるよう、心の琴線にふれる体験型の授業を行っています。助産師をお招きして、実際の赤ちゃんの大きさや重さを再現したお人形を使って体験しました。

## “森村っ子”のこんなエピソード 2

低学年担任 千田 信吾 教諭



総合学習では、本物に触れることを大切にしています。特にミニグラウンドや森は子どもたちにとって宝箱のよう。四季の移ろいを感じたり、全身を使って自然を楽しんだりする活動を取り入れています。特に低学年では、ミニグラウンドで集めた材料を基に作品作りをします。どんぐりを使ってキーホルダーを作ったり、フォトフレームを作ったり、どんぐりを転がす迷路を作ったり。「あれ？先生、どんぐりに穴が開いてる！」よく見ると、小さな穴がぽつんと開いています。「なんでだろう？」とみんなで観察していると……。小さな白い虫がどんぐりの穴からひょっこり顔を出しました。子どもたちは「ぎゃー!!」「なにこれ!!」「すごい!赤ちゃんが生まれた!」と大騒ぎ。「この虫、育てたら大きくなるのかな?」どんぐり一つとっても、いろんなドラマが生まれるのが子どもたちの世界。思わぬ発見を楽しみながら、子どもたちは創造力を伸ばしていきます。



# おいしい給食がつなぐ、心と体の成長

健全で豊かな食生活は人が生きていくために大切です。本校では管理栄養士と連携して食育に取り組み、発達段階に応じた活動を通じて、心を込めて「いただきます」を言うことのできる心を育てます。



完全自校式の給食です。工夫された献立に基づき、吟味した素材を使って調理されています。メニューの半分は和食です。好き嫌いのあるお子さんについても、少しずつ食べられるよう導きます。

## 給食



笑顔を運ぶ、おいしいひととき。

給食の配膳も自分たちで行います。みんなで声を掛け合いながら協力する姿は、まるで小さな社会。配膳を通して、自主性や思いやり、そして仲間とのつながりが育まれていきます。自分やお友だちの手でよそった給食を食べるとき、特別なおいしさを感じるのはきっとその努力があるからこそ。温かな記憶は、未来に続く宝物になります。



## 食育



3年生の総合の時間では、大豆を育てています。農家の方から提供していただいた大豆を大切に育て、一粒一粒に命が入っていることを学習し、自分が命をいただいて生きていることを実感します。

## たくさん遊べるように /

### 発達段階に応じた「遊び場」の設定

初等部では子どもたちの「遊び」を大切にしています。「遊び」の中で子どもたちはたくさんの人とかかわり、人間関係や社会性を実際の経験を通して学んでいきます。子どもの遊びには3つの「間」が必要とされています。\*一緒に遊ぶ「仲間」、自由になる「時間」、そして元気に走り回っても差し支えない、物理的な「空間」のことです。初等部では遊ぶ時間を確保するだけでなく、それぞれの学年の発達段階に合わせて遊び場を設定。低学年は教室の前にある中庭で遊びます。達成感の味わえるアスレチックやジャンボ滑り台が大人気。1、2年生と一緒にドッジボールやサッカーをすることも。中学年は森や3年の中庭、高学年は広い校庭や体育館、屋上でサッカーや野球、バスケットボールなどを楽しみます。

※中村和彦「かもめの本棚」(山梨大学学長)



## “森村っ子”のこんなエピソード 3

低学年担任 青木 真生 教諭



「先生、あのね」「先生、遊ぼう!」1年生の子どもたちは元気いっぱい。笑ったり、少し怒ったり、泣いたり、いろいろな表情をする子どもたちに新しい発見の連続です。子どもの自己表現の土台となるのは感情。学校で自分の気持ちを素直に出せるように、できるだけ感情を受け止め、温かい学級づくりを心がけています。「先生!」と呼びかけるつもりが思わず「お母さん!」って呼んでしまって照れている、そんな森村っ子は私は大好きです。



# 年間行事

## 1年間の行事が紡ぐ 彩り豊かな学校生活

出会いにときめく春、成長と冒険の夏、自然に親しむ秋、表現と創造の冬。四季折々の自然と共に学校生活を彩る年間行事は子どもたちにとって大切な時間です。

4月 入学式

5月 運動会 ● 遠足

7月 林間学校 (4～6年生)\*

8月 オーストラリア語学研修 (5・6年希望者)

11月 音楽会

12月 展覧会 ●

1月 スキー学校 (5年生)

2月 スキー学校 (6年生)

3月 学芸会 ● 卒業式

●印の行事は見学が可能です。  
※3年生の林間学校は別の時期に行っています。



森村学園初等部  
「公開行事申し込み」



# Uniforms

## 制服



①男子冬制服 ②男子制服ズボン ③制帽 ④女子冬制服 ⑤女子夏制服 ⑥男子夏制服 ⑦夏帽子 ⑧校内着セーター ⑨校内着長袖 ⑩校内着長ズボン  
⑪校内着半袖 ⑫校内着半ズボン ⑬ランドセル ⑭補助バッグ大 ⑮補助バッグ小 ⑯上履き

# Facilities

## 施設



### メディアルーム

情報の授業のためのメディアルームには86インチ大型電子黒板を2機設置、ドローン、レーザープリンター、スタジオ機能も備えられています。3年生以上はiPadを個人所有とし、毎日家庭に持ち帰って学習に使っています。1、2年生は学校備え付けのiPadを授業時に貸出という形で使っています。日本の教育機関としては初めて「Jamf School」というMDMシステムを使って、児童の所有するiPad内のアプリのアップデートを始め、セキュリティについても適切に設定し、リモート管理を行なっています。



### 教室

教室は全室南向きで、自然光がたっぷり差し込む明るい空間が特徴です。また、照明には明るくムラがなく、目に優しいLEDを採用。さらに、全教室の電子黒板は昨年度新モデルに更新され、より見やすく使いやすくなりました。これらの設備が整った教室環境は、子どもたちが快適に学び、主体的に取り組む力を育む理想的な学びの場を実現しています。



### プール

5月末から11月中旬まで、週1回、体育で水泳授業があります。地熱利用の技術を用いた温水プールで、10分の休み時間に、子どもの身長に合わせて水深を調整することができます。



### 図書室

本が大好きな森村っ子たちのために、図書室には電子検索システム「LIVE-MAX」「LIVE-FINDER」を導入し、より速く図書の貸し出し、返却ができるように、電子管理を行っています。蔵書検索もパソコン端末を使って行うことができ、森村っ子たちの読書を支えています。



### 体育館

体育の授業だけでなく、式典や展覧会、学芸会などの行事も行われます。休み時間は4年生以上が遊ぶことができ、子どもたちはバスケットボールに熱中しています。

# Security

安心・安全な学校生活のために

### 登下校について

子どもたちの登下校時、安全の確保とマナー指導のために、毎日教員や守衛が通路やつくし野駅のホームに立ちます。低学年の下校時は、担任と助手がつくし野駅まで引率して、同じ方面の子どもたちをグループングし、乗車確認を行っています。また、学園正門には、校門通過情報を保護者にメールで伝えるシステムを設置しており、希望者は利用することができます。

### ご家庭との連絡について

学校と家庭の緊急時の連絡は、アプリを使った配信システムを使用しています。児童に、通話相手先限定の携帯電話や、GPSを使った端末の所持を認めています。学校からの文書は学校ホームページ内の保護者用ページ(パスワード必要)で配信されます。

### AED・各種訓練

学園内の各所にAEDを設置しています。職員はAED研修、食物アレルギー(エピペン®)、不審者侵入防止訓練等、様々な場合を想定しての実施訓練を行なっています。

児童については、暴力から身を守るワークショップ(CAP)、インターネットやメールの被害について考えるサイバー講習など、外部講師を招いての授業も行っています。また、「いじめ」問題に対しても、担任と複数の専科、養護、カウンセラーと、多くの目で子どもたちの学校生活を見守り、心の教育の充実に努めています。学校生活そのものが、思いやりにあふれた温かみのあるものであるよう力を尽くしています。高学年を対象に弁護士を招いての「人権」についての特別授業も行っています。